

## 日本沿岸域における過去 3000 年間の高解像度古海洋記録 High resolution records in the Japanese coastal and slope regions for the last 3000 years

加 三千宣<sup>1\*</sup>, 山本 正伸<sup>2</sup>, 安部 雅人<sup>3</sup>  
KUWAE, Michinobu<sup>1\*</sup>, YAMAMOTO, Masanobu<sup>2</sup>, ABE, Masahito<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 愛媛大学上級研究員センター, <sup>2</sup> 北海道大学地球環境科学研究所, <sup>3</sup> 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻  
<sup>1</sup>Senior Research Fellow Center, Ehime University, <sup>2</sup>Faculty of Environmental Earth Science, Hokkaido University, <sup>3</sup>Department of Earth and Planetary Science, The University of Tokyo

現在、過去 2000 年間 (2K) の高解像度気候記録の増強と統合を目指す PAGES プログラム-2K network が進められている。その背景には、モデルによる高精度予測のベースとなる regional-scale の気候パターンや気象災害に関わる現象のメカニズムの解明に、過去 2000 年間 (2K) の高解像度気候記録の復元の重要性が認識されるようになったことがある。年輪、アイスコア、湖沼堆積物、海洋堆積物等から regional-scale の気候パターンの認識が各方面からアプローチされているが、広域をカバーする過去 2000 年間の高解像度の気候記録は地域間で偏りがある。中でも、サンゴ記録に基づく熱帯・亜熱帯以外の地域では、海洋からの情報は堆積物に頼るしかないため、年代決定の不確実性や時間解像度の限界から、求められるような精度の古海洋情報はほとんどない。したがって、古海洋 2K は世界でも極めて厳しい現状があり、こうした古海洋 2K の現状は今後の regional-scale の高精度予測にとって大きな障害となろう。

本研究では、日本沿岸の 2K 古海洋記録復元の取り組みについて紹介する。特に、太平洋で生態系レジームシフトや環太平洋域の異常気象に関連の深い、PDO(Pacific decadal Oscillation) 様の気候パターンの歴史的変遷復元の可能性について、別府湾海底堆積物の TEX86 やアルケノン古水温、マイワシ魚鱗堆積量を通して論ずる。

キーワード: ASIA 2K, 沿岸域の古海洋学, TEX86, alkenon 古水温, マイワシ魚鱗, PDO

Keywords: ASIA 2K, Coastal and shelf/slope paleoceanography, TEX86, alkenon thermometry, Japanese sardine scale, PDO